

核不拡散・核セキュリティ分野における 人材育成についての議題提案

資料2-2

科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会
原子力科学技術委員会
核不拡散・核セキュリティ作業部会
(第19回)
R3.7.19

事務局
からの
提案

核不拡散・核セキュリティ分野は、学んだ知識を幅広く活用・応用できる分野である一方、その重要性や魅力が学生に十分に伝わっていないことから、学生が将来のキャリアパスをイメージできるような工夫が必要。

⇒「**核不拡散・核セキュリティ分野における人材育成の取組みの整理・精微化**」
を実施してはどうか。

○ 具体的には以下の2ステップを検討

(a) 核不拡散・核セキュリティ分野における人材育成の実態の把握

核不拡散・核セキュリティ分野における人材を階層別に分類し、それぞれの階層において必要となる知識・技術やキャリアパスの具体例等について、ヒアリングを実施する。

(b) ヒアリングを通じ、人材の供給元と供給先について整理を行い、キャリアパスの見える化を実施

どこから人を集めてきて、どのような人材育成を行い、その結果、どのような人材がどこに供給されているのかをマップのような形で整理し、本分野のキャリアパスを具体化・視覚化する。

核不拡散・核セキュリティ分野における人材の階層(案)

	該当する職種例	求められる知識・技術	必要な研修・訓練	人材育成の担い手	ヒアリング先候補
実務者 (技能者)	原子力関連施設の 運転員・作業員、 原子力関連サービ ス従事者（輸送、 警備、建設・保守 等）	<ul style="list-style-type: none"> 現場での各種作業の手順を理解し、的確に行うことができる。 各作業の意味・背景を概ね理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 現場でのOJTによるスキルの習得 座学による現場作業に必要な知識の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 一義的には所属機関・組織で実施 技術・知識の更なる向上のための研修については業界団体や専門機関がまとめて実施 	電力会社、原燃、原子力機構、原燃輸送、原防等
管理・ 責任者	原子力関連施設の 管理責任者、 原子力サービス責 任者、 行政機関専門職員	<ul style="list-style-type: none"> 現場で必要となる技術・知識について、原理や理論的背景も含めて理解している。 関連の条約や法令を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> OJTによる現場で必要とされる基本的なスキルの習得（一定程度以上の実務経験） 座学による物理・化学、工学・技術、法令、行政手続等の専門知識の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 一義的には所属機関・組織で実施 技術・知識の更なる向上のための研修については業界団体や専門機関がまとめて実施 	（上記に加え、） 原子力規制庁、地方自治体（原子力安全担当）等
専門家	大学等教官、 原子力関連機関研 究者・技術者、 国際機関等専門職 員	<ul style="list-style-type: none"> 先端の技術動向を把握するとともに、現場で求められているニーズを理解している。 国際的な政策動向を把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学院等高等教育機関における高度専門教育 国際学会等出席による国際コミュニティでの情報交換・研鑽 （・現場での管理・責任者としての実務経験） 	<ul style="list-style-type: none"> 大学院等高等教育機関、専門機関、国際機関等高度の専門知識や技術を提供できる主体 	大学関係者、原子力機構、核管センター、IAEA職員（「元」含む）等